



日本サーバス本部会報

2022. 6 日本サーバス会長 N S

2月に始まったロシアのウクライナ侵略が6月の今もまだ続いています。その影響で燃料代、食費、あらゆる資材の高騰が全世界的に起きています。一人のロシアの指導者の暴挙でこんなにも世界の混乱が続くのは大変遺憾なことです。

一方、ウクライナで苦しむ人々の力になりたいという、善意の人々の行動が、ともすれば人間不信に陥りがちな日々を灯りをともしてくれます。日本サーバスでもその行動を起こした会員さんがいて、一人のウクライナ女性がその支援を受け、日本での生活を始めています。詳しくは2でご紹介します。

今回の会報は、次の内容でお届けします。

- 1. ウクライナ支援 国際サーバス会長からのメッセージ・・・国際サーバス [Jonny 会長](#)
- 2. 近畿支部の例会にウクライナ女性が・・・ [NS](#)
- 3. ロシアのウクライナ進攻に思うことー東日本大震災のころの受け入れ
・・・東北支部 [TN](#)
- 4. 第3回東アジア地区オンライン交流会の感想
世界は一つを実感・・・東北支部 [TN](#)
世界が広がりました・・・東海北陸支部 [IM](#)
- 5. 私の SDGs
わが家の SDGs の実践・・・関東支部 [TN](#)
サーバスとの関りがさらなる前進の一步へ・・・関東支部 [SS](#)
SDGs 4 質の高い教育をみんなに・・・東海北陸支部 [KN](#)
- 6. 国際サーバス会報 2022年 No.1 の紹介・・・[国際部チーム](#)
- 7. あとがきにかえて・・・ [NS](#)

1. ウクライナ支援 国際サーバス会長からのメッセージ

国際サーバス Jonny 会長

Servas International News Bulletin Vol.24 No.1 • 2022

p 3

(翻訳は下にあります)

[sinb_eng_vol_24_no_1_2022.pdf\(servas.org\)](http://sinb_eng_vol_24_no_1_2022.pdf(servas.org))

By Jonny Sägänger, SI President

What can I do?

When the Ukraine conflict began on February 24 and refugees started to leave



the horrors of war, many Servas members around the world asked themselves:

What is the role of a peace and hospitality organisation like Servas in a situation like this? What can I, as an individual member, do to support the innocent, suffering people?

The questions have been asked many times before, during other armed conflicts, violent political repression, and natural disasters. It has given many of us the nagging feeling of frustration of being just observers of human tragedies unfolding in front of our eyes.

This time, with the extensive media coverage worldwide, it was different. The devastating outbreak in Ukraine created an unprecedented, unified reaction from much of the Servas community. The chain reaction in our organization after February 24 didn't follow a plan or a strategy, but so far it has turned out to work well.

The main components of the Servas members' action were:

- Find out about the situation for each individual Servas members in Ukraine.
- Offer support to Servas members, their families and friends who have been forced to leave their country as refugees.

Thanks to intensive networking via email, text messages via mobile phones, and other communication channels, a number of concrete arrangements were made to receive Servas members as a first landing spot, before they are offered a more permanent place to stay and hopefully in the future can return to Ukraine.

The networking has also resulted in the gathering of information about the current situation for our members inside Ukraine.

These are of course extraordinary times, but extraordinary times require extraordinary measures.

Servas now has a draft plan for action that we can develop and use in future situations when members of our community are at risk. Let's hope we won't need to use it.

One comment from a Servas member in Slovakia stuck in my mind.

"Hello Jonny,

We are considering helping people from Ukraine in any way... No matter if they are Servas or not."

So, with this comment in mind, should Servas become an organisation where the members open their homes also to non-members? There have been initiatives by Servas Britain and Scotland (featured in previous SI News Bulletins) and it's definitely within the philosophy and values of Servas.

Servas' core activity is still our hospitality program of homestays for members and all the peace promoting activities going on around the world (read more about all the activities in the SI Annual Reports here:

<https://servas.org/en/community/board-and-management/administration>

We must keep in mind that Servas doesn't have the competence, the resources, and the aim to do the work that is many times better performed by the established relief organisations like UNHCR, Red Cross, Red Crescent, Magen David Adom, Save the Children, UNICEF, to mention just a few.

Servas should not compete with these established organizations on the ground in conflict areas

in our ambition to relieve people of their sufferings. There's a risk we cause more problems than we solve, by appearing on the spot and starting to compete for scarce resources like food, gasoline and other utilities.

Should Servas International start collecting money for a fund that can be used to support the people who are suffering in Ukraine?

I would say no, not at this point of time with the current focus of our activities.

I urge everybody who wants to, to donate money to established organisations to financially support people who are hurt by natural disaster and live in areas of armed conflict like Yemen and Central African Republic for example.

It's an opinion I base on what I hear and read in the mass media and – maybe most importantly – what I have heard directly from some Servas members in countries that have been exposed to different kinds of disasters.

Let the professionals handle their areas of expertise and let's unite in Servas around what we do best.

We now know that there's a moral and practical preparedness in our network to support members in crisis.

We will need to evaluate what we could have done better, I'm sure there's plenty, and what can be developed.

We can discuss ways to develop the concept of a support network for refugees around the world. Let's do this before and during the Servas International Conference and General Assembly (SICOGA). **We urge you to save the dates 22 to 28 November 2022 to attend SICOGA in India. Read more about it on page 20.** I hope to see you there, either virtually or in person.

All the best,

Jonny

President, Servas International . . .

[Covid-19 Policy Reminder](#)

SI's global board SI Exco last year approved a COVID-19 Host and Travel Policy for Servas members around the world, while local and regional governmental restrictions and safety concerns may still apply. Please find the entire policy here: <https://servas.org/en/news/covid-19-host-and-travel-policy-servas>

Servas International News Bulletin Vol.24 No.1 • 2022 p 3

日本語訳 NS

SI 会長 Jonny Sägänger,

どうすればいいのでしょうか。

2月24日にウクライナ紛争が始まり、難民が戦争の恐怖から逃れようと避難しはじめたとき、世界中の多くのサーバスのメンバーが自問自答しました。

このような状況において、Servasのような平和とおもてなしの組織の役割は何ですか。

罪のない苦しむ人々を支援するためにわたしは一会員として何ができるのでしょうか。

これらの質問は、他の武力紛争、暴力的な政治的抑圧、自然災害の際に、これまで何度も尋ねられ

てきました。それは私たちの多くに、私たちの目の前で展開されている人間の悲劇のただの傍観者であるという欲求不満の気持ちが付きまといました。

今回は、世界中の広範なメディア報道で、それは異なっていました。ウクライナでの壊滅的な侵略行為は、Servas コミュニティの多くから前例のない様な反応を生み出しました。2月24日以降の組織内の連鎖反応は、計画や方策はまだなかったにもかかわらず、結果的にはうまく作用しています。

サーバスメンバーの行動の主な要素は次のとおりです。

- ウクライナの各個々の Servas メンバーの状況について調べる。
- 難民として国を離れることを余儀なくされた Servas メンバー、その家族、友人に支援を提供する。

電子メール、携帯電話によるテキストメッセージ、その他のコミュニケーションチャネルによる集中的なネットワーキングのおかげで、ウクライナの Servas メンバーを最初の逃避先として受け入れるために、より恒久的な滞在場所が提供され、将来ウクライナに戻ることができるようになる前に、多くの具体的な受け入れ態勢が準備されました。

このネットワークはまた、ウクライナ国内のメンバーの現在の状況に関する情報収集にもつながりました。

これらはもちろん非常事態ですが、非常事態は特別な措置を必要とします。

Servas は現在、コミュニティのメンバーが危険にさらされる場合の将来の状況に対して、使用できる行動計画の草案を練っています。それを使用する必要がないことを願いましょう。

スロバキアの Servas メンバーからのコメントが気に掛かりました。

「こんにちはジョニー、我々は、ウクライナの人々を何としても助けたいと考えている。彼らがサーバス会員であろうとなかろうと。」

では、このコメントを念頭に置いて、Servas は会員が非会員にも家を開く組織になるべきでしょうか。 Servas Britain と Scotland(以前の SI News Bulletins で特集)によるイニシアチブがあり、それは間違いなく Servas の哲学と価値観の範囲内にあります。

Servas の中核的な活動は、会員のためのホームステイと世界中で行われているすべての平和促進活動のホスピタリティプログラムです(SI 年次報告書のすべての活動の詳細については、こちらをご覧ください)。

<https://servas.org/en/community/board-and-management/administration>

UNHCR、赤十字、赤新月社、Magen David Adom、Save the Children、ユニセフなどの確立された救援団体によって何倍もうまく行われている活動を、Servas にはそれ以上に行う能力、資源、目的がないことを私たちは心に留めておかなければなりません。

サーバスは、人々を苦しみから解放するという私たちの野心の中で、紛争地域の現場でこれらの確立された組織と競争すべきではありません。私たちがその場に現れ、食糧、ガソリン、その他の公益事業などの希少な資源を奪い合うことによって、私たちが解決するよりも多くの問題を引き起こすリスクがあります。

国際サーバスは、ウクライナで苦しんでいる人々を支援するために使用される資金を募集し始める必要がありますか。 私はノーと言うでしょう、私たちの活動の現在の焦点から見て、現時点では

そうではありません。私は、お金を寄付したい人に対しては、すでに確立された組織にお金を寄付することを強く勧めます。例えば、自然災害で傷ついたり、イエメンや中央アフリカ共和国のような武力紛争地域に住んでいる人々を財政的に支援するために確立された組織にです。-

これは、私がマスメディアで聞いたり読んだりしたこと、そしておそらく最も重要なのは、さまざまな種類の災害にさらされている国々の Servas メンバーから直接聞いたことに基づいた意見です。

プロフェSSIONALがそれぞれの専門分野を扱えるようにし、私たちが最善を尽くすことができることを中心に Servas で団結しましょう。

私たちは今、危機に瀕しているメンバーを支援するための道徳的で実践的な準備が私たちのネットワークにあることを知っています。もっとうまくやれたことは何かを評価する必要があるだろうし、もっとやれることはたくさんあると確信しています。

私たちは、世界中の難民のための支援ネットワークの概念を開発する方法を議論することができます。サーバス国際会議・総会(SICOGA)の前と最中にこれをやってみましょう。2022年11月22日から28日までの日付にマークを付けて、インドの SICOGA に参加することを強くお勧めします。詳しくは 20 ページをご覧ください。私はオンラインでまたは直接、そこにお会いできるのを楽しみにしています。

すべてがうまくいきますように、

ジョニー

国際サーバス会長

~~~~~  
Covid-19の指針

SI の役員 SI Exco は昨年、世界中の Servas メンバーのための COVID-19 ホストおよび旅行指針を承認しましたが、地方および地域の政府の制限と安全上の懸念が引き続き適用される可能性があります。ポリシー全体はこちらからご覧ください:

<https://servas.org/en/news/covid-19-host-and-travel-policy-servas>

## 2. 近畿支部例会にウクライナ女性が

NS

5月29日の近畿支部の例会は支部会員のKさんが13年前500坪の敷地を開拓してバラ園に見事生まれ変わったとても素敵な小林ガーデンで行われました。

色とりどりのバラが咲き誇るかぐわしいガーデンで、初めてウクライナからのお客様Aさんにお会いしました。

彼女は2018年にサーバス旅行で、近畿支部Wさんのところにステイされ、その後もお二人はメールやLineで繋がっていられました。ウクライナ侵攻後、彼女はポーランド、ドイツなどを回った後、日本のWさんのところ



に避難されました。



Wさんは行政とのやり取り、ビザの取得や就職、生活のヘルプなどお世話され、Aさんは6月から京都の公立高校のALT補助の仕事が始めています。近畿支部では支部会計からの寄付と例会参加者からのカンパなどでAさんを支援されて、彼女は自立への第一歩を始めています。

詳しくは近畿支部会報6月号をご参照ください。本部役員会では今後のウクライナ避難民支援としてはサーバス会員でなくても、サーバスのトラベラーと同様に日本サーバス会員宅で短期ステイを受け入れるようにできたらと思っています。

寄付についてはすぐ日本サーバスで集めるということはありませんが、関連する人たちや支部長さんたちと連絡を取りながら、さらに支援が必要な時に再度話し合っ、体制を決めたらどうかと思っています。

### 3. ロシアのウクライナ進攻に思うこと—東日本大震災のころの受け入れ

#### 東北支部 T N

すさまじいまでのロシアの攻撃は毎日心が痛みます。聞くところによると、キエフは歴史の有る街で好きな人もたくさんいる街だということです。しかし、ロシア軍の猛火に会い、どのようになっているのでしょうか？日本政府が受け入れを表明したので、民間でも協力したいです。ウクライナ人の留学生とか労働者で日本を頼って来る人の受け入れをしたいです。

時あたかも、ちょうど11年前の東日本大震災のころの受け入れを思い出しています。浪江町の4家族12名の受け入れを経験しました。2歳から小学生2名、大人10名、最高年齢は70代でした。きっかけは震災直後の30分後に「疎開しませんか」のメールをサーバス会員にしていたことでした。それを見た会員のご親族が東京経由で避難していてその後我が家に来られたということです。3月20日の夕方電話があったのが始まりでした。一番遠くからは遠野からのご家族でした。



いずれにしても、約2か月近く我が家での家族が増えました。当時は弥彦小学校の3年生のK君の里親でしたので、一挙に15名の大家族になったわけです。思うによく我が家の白い方の家で4家族12名が生活していたものだと感心したりしています。

時々、隣の母屋で、15人で、K君の名司会に拍手して「ふるさと」を合唱しながらの食事会をしました。「論語かるた」を隣の子供たちと一緒にしたり、老いも若きも一緒に「大縄跳び」をしたりして過ごしました。我々にはわからない苦しみや、故郷への思いがあったことでしょう。その後、会津、南相馬、いわきなどに帰られています。今は、中元お歳暮の交換で元気であることを確かめています。昨年2歳

のお孫さんが中学生になりました。

さて、サーバスジャパンとしては、サーバスウクライナと連絡したり、日本の内閣府などに日本を頼って来る人がいたら受け入れする家庭を仲介しますということを行動するのはいかがでしょうか？健康に笑顔で話しできることが一番の楽しみです。ニュースを見るにつけ、この思いは、日本にあっても、世界であっても、同じなのにといい気がしています。

## 4. 第3回東アジア地区オンライン交流会の感想

5月28日、日本時間午後3時から第3回東アジア地区オンライン交流会が行われました。今回も世界から100人以上、日本から18人のメンバーがオンラインで参加しました。初参加のお二人の感想をご紹介します。

### 世界は一つを実感

東北支部 T N

5月28日の日本時間15:00から17:00の間に世界の104人のメンバーが、台湾サーバスの幹事で、東アジア会議が行われました。私は妻の古希の誕生日で、映画と食事を約束したので、参加しないことにしていました。

しかし、我が家にも台湾のRさんが来たことがあり、彼女が台湾からラインで参加の案内をもらい、妻との映画は次回にして、食事だけでお昼を引き上げ、参加することにしました。

参加してみると、2009年ドミニカ共和国にボランティアで行っていた時以来の世界は一つという感じがしてうれしかったです。台湾のコーディネーターの司会のもと、台湾のHAKKA CULTUREをテーマに3人のメンバーの登場とビデオ放映がありました。英語のナレーション付きでしたので、写真で見ながら説明の英語はよくわからないながらも楽しめました。

また、アルゼンチン、スペイン、ドイツ、シンガポール、イスラエル、アメリカなどからの参加もあり、本当に世界は一つだと思いました。ウクライナから日本に避難している方も参加しました。

本当に参加してよかったと思いました。皆が平和を求めて平穏な生活をしたいし、それぞれの民族の歴史と生活習慣を知ることは共通のテーマの一つなのだと思います。分科会は8グループでしたが、6人の方は結構サーバスのメンバー期間が長い人がおられて、私のように2009年からはまだ12年で72歳の年にしては、大変若い？のだとわかりました。

今年の3月に日本サーバスに入会された大学生Iさんからも次のコメントをいただきました。

### 世界が広がりました

東海北陸支部 I M

英語が堪能でなく、会話の内容があまり分からなかったり、会話に参加出来なかったりしましたが、台湾の方々、ウクライナの方をはじめ、様々な国の人のお話は、私の知らない世界を広げてくれる、大変貴重なものとなりました。

今回参加させて頂き本当にありがとうございました！！



## 5. 私の SDGs

### わが家の SDGs の実践

関東支部 T N

#### (目標5 ジェンダー平等)

サラリーマン退職後、わが家では家事を夫婦で分担しています。買い物は概ね二人で行き、食事を作る人と後片付けする人に、また掃除をする人と洗濯をする人に分かれ分担します。ただ私の場合、食事のメインのレパートリーが少ないので、YouTube でよく Koh Kentetsu さんの料理動画を見てレパートリーを増やしています。煮物は苦手、家内の方が上手で美味しいです。

#### (目標3 すべての人に健康を)

健康については、病にかかる前の予防が得策と思い、特にコロナ禍の中で運動不足に陥らないよう出来るだけ趣味のスポーツをする事に心がけています。幸い家内とほぼ趣味が同じなので、サイクリング（週に1~2回 40キロ）、ゴルフ（月に2~3回）、ウォーキング（時々10キロ）、冬にはスキーなどを夫婦で楽しんでいます。

#### (目標4 すべての人に生涯学習の機会を)

私達の住む東京（江戸川区）では、高齢者のための生涯学習講座『カルチャー教室』が充実しています。サーバス旅行で知合った韓国の友人が沢山出来たことから、3年前から夫婦でこの講座の『はじめての韓国語』を学んでいます。またサーバス旅行で知合ったスペイン語圏の友人も多く、夫婦でスペイン語もインターネットで学んでいます。コロナが落ち着けば是非、サーバス旅行で韓国やスペイン語圏のサーバスの友人達を訪ねたいと思っています。



韓国語の教室で



バルセロナの友人

### サーバスとの関りがさらなる前進の一步へ

関東支部 S S

私は絵や文を描く（書く）ことで自分自身の心の病という弱さや惨めさを克服し、乗り越えたいといつも思っています。SDGsの項目でも（10）人や国の不平等をなくそう、や（16）平和と公正をすべての人に、とあります。人間の行動の抜本的な改革の緊急な必要性が世界中にあるからこそSDGsという大きな取り組みが始まっているのだと思います。



私は自分の出版された本の表紙を自身で描きました。それは高校生の時に描いた自画像です。心の病になってしまったのですが色々と模索して生きている様子をエッセイではペンネーム「国見あや」として書きました。

出版いたしました同じ年の2011年に障がい者を対象とした絵の公募が東京でありました。私はそのエッセイで使った表紙の自画像ともう一点の合わせて二点が入選しました。

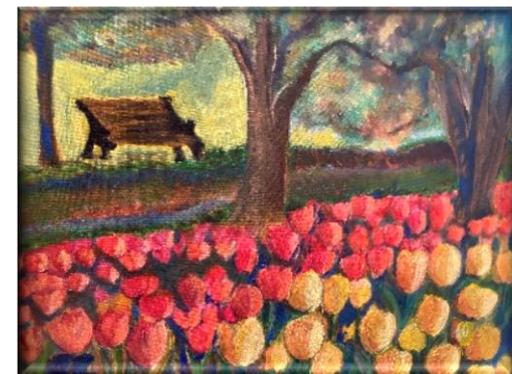
その公募の入選を機に私は絵を描くことは自分にとっての強みかもしれない、とも思いました。また自分が絵に携わって自信をつけ元気にな

っていくことで、同じように悩んでいて苦しんでいる方、また支援が必要な方のために役にたたい、と思えるようになりました。

SDGsに出てきます(16)の「公正」という言葉は公平で私心、不正や隠し事がなく、態度や行動が正しい、ということを示す語のようです。サーバスの会員の皆様と交流するとこういった言葉も関連してくるようになると思います。何故かと申しますと、このようなハンディキャップを持っている私を受け入れてくださっているから



です。SDGsの(10)「不平等をなくそう」に関してもまさにサーバスの「相互寛容」「世界平和」のキーワードに繋がるように思います。強力的な利害



関係に押されがちな物事には、特に貧しい人、弱い人、傷つきやすい人にもっと関心を持つことも必要だと思います。人は自分だけで成り立っている自由な存在ではない、人は自分だけでは自分にはなりえない、という気持ちをサーバスでの「国際親善」「異文化交流」でも感じさせていただいている日々です。

これからの自分での活動も絵に限らず自分を見失わずサーバス会員の皆様のよい所を積極的に取り入れられるように活動に参加していきたいと改めて思います。「SDGsウォッシュ」に気をつける、と聞くことがあります。この言

葉の似たようなものに「グリーンウォッシュ」があります。グリーンウォッシュとは環境によいと訴えながらじつは効果がなかったり、環境に悪い影響を与えていたりするような状況をいいます。SDGsウォッシュも、それらしく見えるものそうではないという活動が考えられる、という状況です。

私も「自分ウォッシュ」にならないよう前向きにこれからも楽しく活動していきたいです。

今は横浜市の職員として働く一方で、一般社団法人障がい者自立推進機構パラリンアート運営事務局でパラリンアーティストとして、また福島県いわき市「はなのころ」に障がいのあるアーティストとして登録しております。パラリンアーティストとしては絵の複製画を企業や学校に購入いただいたり、かぼちゃを描いている絵が2022年度のダイソーのカレンダーに採用されました。「はなのころ」ではい



わき市の江戸時代から続く温泉旅館「古滝屋」にて温泉施設のギャラリーを借り、絵の展示販売をしていただいております。

自分がかつて苦しんでいました。障がい者という偏見の目で見られているような壁を感じたりしましたが今は希望をもって前へと進む私があります。乗り越えていかななくてはいけない物事はこれからも続くとは思いますが、私のようなものにもたくさんの機会を与えてくださる皆様に感謝いたします。



[SS | アーティスト紹介 | 一般社団法人障がい者自立推進機構](#) [パラリンアート運営事務局 \(paralymart.or.jp\)](#)

タイトル『思い出のみかん畑』

福島県いわき市「はなのころ」

コーポレートサイト：<https://hananokoro.jp>

## SDG s 4 質の高い教育をみんなに

### 東海北陸支部 KN

2021年2月1日、一人の中国人の少年が私を訪ねて来ました。彼の名前はL.H. 町の国際交流協会責任者をしている私に「日本語と高校進学が何とかならないか？」と友人が彼を連れてきたのです。彼はその時17歳、同年1月17日に来日しました。それから2週間の自宅隔離が終わったその日に私を訪ねてきたというわけです。日本語が全くできない彼の「高校進学をどうにか面倒見てほしい」という頼みでした。

2019年に中学校を卒業してから、1年半中国では高校に行っていなかったのです。後に彼はその1年半がどんなにか孤独でつらい日々だったかを語ってくれました。

6歳の時父母が離婚、母は働きに日本へ、彼は母方の祖母と暮らしました。健気に勉学に励んだ彼は地域のトップレベルの高校に合格できました。しかし高校の費用を捻出できず、進学できませんでした。

2020年9月日本にいる母親から「日本に来て高校へ通うように」と

連絡がありましたが、コロナ禍がそれを阻みました。そんなこんなで2021年1月にやっと来日しました。

当時夫の体調も優れず、私はお引き受けはできそうになかったのですが、当の夫が「全力を尽くして面倒見てあげてほしい」と申しました。夫は瀋陽（当時奉天）生まれの哈爾濱（ハルビン）育ちで、少年は哈爾濱近郊からやってきたのです。

やむなく先ず役場の教育課を訪ねましたが、具体的な方策がありません。翌日から毎日2時間日本語の勉強を始めました。中国語は挨拶程度しかできない私は途方にくれましたが、ふとしたきっかけで英語を話してみたら、かなり理解してくれました。語彙数がとても豊富でした。そこでお互いに拙い英語での日本語学習が始まりました。教材には日本語能力試験のテキストを使いました。5級からのスタートです。驚いたことに彼は砂地が水を吸い込むように吸収していきます。諏訪湖畔に「長野文化国際学院」という外国人に日本語を教える語学校があるのを知っていたので、そこを訪ね入学を打診しました。学力をチェックして貰い、初級クラスへの編入が認められました。4月から語学校へ通い始めました。

一方私は下諏訪町の教育長の指導を受けて、長野県の高等学校教育課と連絡を取るようになりました。

相談の結果「帰国子女枠」での県立高校受験を目指すことになりました。

それには先ず日本語が理解できなければなりません。日本語学習に一段と熱が入りました。

12月5日の「日本語検定試験」受験を決め、特訓が続きました。秋になりだいぶ力が付いてきました。

語学校で受験申し込みが始まりましたが先生は3級受験しか認めません。

少年は2級を受験したいと言いますし、私も試験日までには2級合格は可能と踏んでいました。語学校に出掛けて交渉し、何とか2級受験を納得して貰いました。11月末には2級の問題ですれすれ合格ラインに到達しました。(2022.1合格しました)

同時に高校の入試問題にも取り組み始めました。帰国子女枠の試験は数学・英語・理科の3教科です。社会科は面接、国語は作文です。あまり日本語を必要としない数学から取り組みました。問題の傾向が中国とだいぶ違うようで、はじめは戸惑いましたが、だんだんに理解できました。テキストは過去の問題集です。驚いたのは英語です。短期間で、大変よく理解でき、解答できるようになりました。一番苦労したのが理科でした。問題の日本語量が多く、それを読み解くのが困難を極めました。1年分ずつ問題を一緒に読み、説明することを繰り返しました。

この地域には県立高校が9校あります。毎年帰国子女対応の当番校が決められます。当番校から「テストをして、どの高校なら合格基準を満たすか?を判定しましょう」との連絡が来ました。まだ日本語もままならない中で12月17日テストに臨みました。

結果は「9校どこでも受験できる」との折り紙付きでした。それからは受験問題に懸命に取り組み、地区で一番の難関校「諏訪清陵高校」に合格しました。

同じ年の孫は大学に、少年は高校に進学しました。

母親と今のパートナーは中華料理店を開いていますが、コロナ禍で悲惨な状態です。母親は12年間日本で生活していますが、日本語が全くと言っていい程、理解できず、話せません。”いらっしやいませ”とメニュー、お勘定、”ありがとうございました”が全てです。

今の彼は「学校に通い、店を手伝い、老人施設で週3、夜2時間のアルバイト」そして国語だけは“助けて!”と我が家に勉強に来ます。

彼を助けるどころか、自分が大きな喜びや張り合いを貰っています。日中は難しい関係にあり、中国に対しての思いは複雑です。しかし少年の「質の高い教育を受ける権利」を守りたい一心の日々でした。これからも、、、

## 6. 国際サーバス会報 2022年 No. 1 の紹介

### 日本サーバス 国際部チーム

国際サーバス (SI) では年4回 News Bulletin (会報) を英語、スペイン語、フランス語で制作し、各国サーバスに配信しています。日本サーバスは各支部を通して英語版を全会員に配信していますが、[sinb\\_eng\\_vol\\_24\\_no\\_1\\_2022.pdf \(servas.org\)](https://www.servas.org/sinb_eng_vol_24_no_1_2022.pdf)

日本サーバス会長委嘱のプロジェクトチームである「国際部」チームが上記内容を日本語で要約・紹介しました。興味のある部分や写真のキャプションだけでも元版をご覧いただければ世界の各地で行われている多様なサーバス活動の一端を味わっていただけるのではないのでしょうか。



| ページ   | 概要                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
|-------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 5     | <p><b>Servas Helps in Europe</b></p>  <p>サーバスウクライナのSergiy会長からウクライナの現状報告。<br/>           コントクトがとれたサーバスウクライナのメンバーは、ほぼ全員安全である。だが、まだ他にも支援が必要な難民もいる。そこで、それぞれ自分達の国にボランティアセンターがあると思うので、そこでウクライナの難民支援等の情報を得て欲しい。とのコメントが記載されています。</p> |
| 8     | <p><b>Helping Hands</b></p> <p>9人乗りのバンを借りて、ウクライナから避難するメンバーをドイツやフランスのサーバスメンバーのステイ先に送り届けたAdmaさん・Sylviaさんの支援活動の詳細が紹介されています。</p>                                                                                                                                                                                  |
| 9     | <p><b>100 Volunteers Needed</b></p> <p>国際サーバス(SI)執行委員会が、次の役職を募集しており、詳しい内容や問い合わせ先等が紹介されています。</p>                                                                                                                                                                                                               |
| 11    | <p><b>Servas by Bike 2022</b></p> <p>自転車の旅、開催のご案内です。6月23～26日、チェコ、ドイツ、ポーランドの(3国が)国境を接するとして知られるラウジッツ高地で開催予定。</p>                                                                                                                                                                                                |
| 13    | <p><b>Calling All artists, Come to Sweden</b></p> <p>スウェーデンでアートワークショップを6月12-19日に開催予定。) 詳しい内容や問い合わせ先等が紹介されています。</p>                                                                                                                                                                                            |
| 14    | <p><b>Other Hospitality Groups</b></p> <p>BeWelcomeのグループメンバーであるFamitaさんのホスピタリティー・エクスチェンジに対する思いが語られています。</p>                                                                                                                                                                                                   |
| 15    | <p><b>Servas in Water: Italy</b></p> <p>イタリアでのラフティングイベントが5月27～29日から開催された。</p>                                                                                                                                                                                                                                 |
| 16    | <p><b>Summer Youth &amp; Family Camp</b></p> <p>イタリアのカタニーヤで8月23～29日に、サーバスユース&amp;家族キャンプが開催予定。料理を作ったり、音楽を楽しんだりと盛りだくさんのイベントを予定している模様。</p>                                                                                                                                                                       |
| 18-19 | <p><b>“Covid Update” Malawi borders are OPEN</b></p> <p>マラウィ・サーバスが提供する4～6週間のSYLE プログラムの紹介です。広範にわたる素晴らしいイベントの数々がある反面、さまざまな条件や義務も課せられます。</p>                                                                                                                                                                    |
| 20    | <p><b>Servas Albania Begins</b></p> <p>アルバニアサーバスは、16才で会員になった Viola Balla とその母親らによって2017年に始動し、徐々に成長しています。</p>                                                                                                                                                                                                  |

|       |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
|-------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 21    | <p><b>USA Servas Events</b><br/>         米国サーバスのイベント紹介です。</p> <p>① Fred Carpenter の主催する映画愛好家の集い<br/>         ② 士官学校出の会員Paul Chappel による、戦争と平和に関する考察のポッドキャスト<br/>         ③ ピースセクレタリー Yosi の寄稿。サーバスホストとトラベラーの交流が我々の意識の拡張をもたらすこと。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
| 22-25 | <p><b>Come to the 32nd SI Conference</b></p>  <p>今年11月22-28日にインドのPanchgani で開催予定の第32回国際サーバス大会(SICOGA 2022)について、Jonny会長による紹介と招待です。大会のテーマは “Servas Growth for a More Peaceful World” で、平和、人権、環境問題、気候変動等に加えて、当然ながらウクライナの戦争も議論されるでしょう。11月25-26日は各国サーバス代表者による総会(SIGA)で、国際サーバスの次期役員選挙も行われます。総会には代表者以外でもオブザーバー参加できます。</p>                                                                                                                                                             |
| 26    | <p>ユダヤ教、イスラム教、キリスト教の信者がイスラエルで一堂に会するイスラエルサーバスの年次総会が、去る3月にエルサレム近郊のアラブ人居住村で開催され、通例の議事の他に民族間、宗教間の親善交流を図るイベントが組まれました。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
| 27    | <p>SI News 編集長のカナダ人 Michael Johnson は、いつでも、どこからでも写真や記事の投稿を、以下のメルアドで待っています。</p> <p>newsletter @ servas.org</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
| 28-29 | <p><b>New Key People</b></p> <p>① イランと韓国のサーバス役員の写真付き紹介です。<br/>         ② 国際サーバスは1973年以来、国連の経済社会理事会 ECOSOC で認定された国際非政府組織 iNGO であり、ニューヨーク、ジュネーブ、ウィーンの国連施設に代表者を派遣しており、インドサーバスの Hamza Singh が国連内のサーバス活動を総合調整しています。彼等の活躍は以下で見られます。</p> <p><a href="https://servas.org/en/Servas-and-the-UnitedNations">https://servas.org/en/Servas-and-the-UnitedNations</a></p> <p>③ 国際サーバス執行部が承認した新型コロナ対策要領は以下で見られます。</p> <p><a href="https://servas.org/en/news/covid-19-host-and-travel-policy-servas">https://servas.org/en/news/covid-19-host-and-travel-policy-servas</a></p> |

## 7. あとがきにかえて

NS

コロナ感染者の数も少し下降傾向になってきました。日本の外国人旅行客の入国受け入れも6月より団体観光客から始められています。皆様のところではサーバス旅行の問い合わせなど海外から来ていますでしょうか。サーバス旅行と受け入れに関しては日本サーバスのウェブページに記載している国際サーバスよりの「サーバス旅行と受け入れについての指針」を参考にいただければと思います。[SI Covid19 policy 202109\\_jpn.pdf \(servas-japan.org\)](#)

日本サーバスの各支部もコロナ禍ではオンライン中心であったものが対面での開催も2、3の支部で始まっています。

また2023年1月から国際サーバスは各国のサーバス会員数に応じて拠出金を徴収する方向に変わります。日本サーバスでもSOLの会員登録数を12月までに確定するために各支部と本部のオンライン会議を数回重ねて、IT委員さんたちのご努力で支部の会員数を集約してきました。コロナ禍で会員数が激減するのではという不安もありましたが、集約してみると各支部のご努力のおかげで199会員から173会員への減ということですみませんでしたのでほっとしています。(実質の会員減は26名)。皆様のサーバスへの愛情に対して感謝いたします。これから対面の支部会議なども増えてくると思いますが、皆様、お顔を合わせて、友好をますます深めて楽しく交流していただくことを心から願っています。

いつも皆様のご支援に感謝しています。今後ともよろしくお願ひ申し上げます。

...

[\(目次へ\)](#)